Minitab Engage®

入門ガイド

目次

1 の紹介 Minitab Engage® 4
目的 4
Engage について学ぶ 4
このガイドについて学ぶ 5
desktop app をインストールします 5
次の作業 6

2 プロジェクトを開始する 7
目的 7
ワークフローについて学ぶ 7
アイデアを作成して提出する 7
新規プロジェクトを開く 8
次の作業 9

3 ブレインストーミングツールを使用する 10
目的 10
ブレインストーミングツールについて学ぶ 10
ブレインストーミングツールを追加する 11
ブレインストーミングリストを生成する 11
図形から X 変数と Y 変数を作成する 11
次の作業 12

4 プロセスをマップする 13
目的 13
マップについて学ぶ 13
プロセスマップを追加する 15
図形とコネクタを追加する 15
図形に変数を追加する 16
マップ上にデータを表示する 16
次の作業 17

5 フォーム内の変数を操作する 18
目的 18
フォームについて学ぶ 18
C&E マトリックスを追加する 18
[管理計画] を追加する 19
次の作業 19

6 モンテカルロ・シミュレーションを追加する 20
目的 20
モンテカルロ・シミュレーションについて学ぶ 20

パラメータの最適化について学ぶ 20
感度分析について学ぶ 20
次の作業 21

7 プロジェクトを提出して共有する 22
目的 22
フェーズレビューのためにプロジェクトを提出する 22
レビューステータスを確認する 22
プロジェクトを共有する 23
次の作業 23

8 ダッシュボードを表示する 24
目的 24
ダッシュボードを開く 24
ダッシュボードについて学ぶ 24
ダッシュボードのビューについて学ぶ 26
次の作業 26

1. の紹介 Minitab Engage®

目的

- Engage について学ぶ（4ページ）
- このガイドについて学ぶ（5ページ）
- desktop app をインストールします（5ページ）

Engage について学ぶ

Engage は、プロジェクトを実行するための強力な desktop app と、ビジネスイニシアチブ全体に関する洞察を提供する安全な web app を結びつけます。

Engage web app 顔立ち

web app には、以下の機能が含まれます。

[ダッシュボード]
ダッシュボードを使用して、主要なメトリックをレポートします。

[プロジェクトリポジトリ]
プロジェクトリポジトリを使用して、プロジェクトを保存します。

[ワークフロー]
ワークフローを使用して、アイデアを収集して吟味し、最適なアイデアをプロジェクトに変換し、フェーズを通してプロジェクトを進めます。

[デザイン] ページ
[デザイン] ページを使用して、データアーキテクトがデータ、テンプレート、公開レポート、ワークフロー、および通知を管理できるサンドボックスを作成します。

Engage desktop app 顔立ち

desktop app には、以下の機能が含まれます。

アイデアフォーム
アイデアフォームを使用してアイデアを提出します。

[[管理] セクション]
管理セクションを使用して、一貫したプロジェクト定義と追跡を確保します。

ロードマップ
ロードマップを使用して、プロジェクトのステップバイステップガイドを提供します。

統合されたツール
統合されたツールを使用して、効率的にプロジェクトを実行します。

役割と権限

ロールとアクセス許可は、デプロイを制御および監視するために必要なインフラストラクチャとガバナンスを提供します。

会社によって選択され、Minitab担当者によって割り当てられたは**[ライセンス管理者]**、会社のサブスクリプションを管理し、次の製品ロールを割り当てます。

[データアーキテクト]
管理者が行うすべてのことに加えて、テンプレートの設計、作成、編集を行うことができます。追跡するデータフィールドを決定します。ワークフロー設定を構成する。公開レポートの作成と編集、プロジェクトの一時停止、キャンセル、再開を行います。

[データマネージャー]
管理者が行うすべての操作に加えて、外部データ ソースから管理データをインポートできます。

[管理者]
ユーザーが行うすべてのことに加えて、次のことを実行できます:アイデアやプロジェクトのチェックアウトを編集、削除、およびリリースします。アイデアやプロジェクトの共有設定を変更する。ダッシュボードに非ワークフロー プロジェクトを含めます。

[ユーザー]
アイデアを作成して送信できるほか、所有または共有するアイデアやプロジェクトを表示または編集できます。所有するアイデアやプロジェクトの共有設定を変更する。フェーズレビューのために所有するプロジェクトを提出する。プライベートダッシュボードレポートを作成および編集する。現在チェックアウトされているプロジェクトのチェックアウトを解除します。非ワークフロー プロジェクトを作成します。

[アイデア提出者]
アイデアの作成と送信のみが可能です。このアドオンロールは、現在のユーザー、管理者、またはデータアーキテクトは既にアイデアを作成して送信できるため、対象ではありません。

このガイドについて学ぶ

このガイドでは、Engage で最もよく使用されるツールのいくつかを紹介します。このガイドを使用して、以下のタスクを完了する方法を学習します。

- プロジェクトのアイデアを提出し、ワークフローを理解する。
- プロジェクトを開き、プロジェクトのロードマップにツールを追加する。
- プロジェクトをレビュー用に送信し、チームと共有する。
- ダッシュボードを開き、そのコンポーネントを理解する。

desktop app をインストールします

会社によって、**[ライセンス管理者]** とその desktop app 更新プログラムのインストール方法を制御します。

- ライセンス管理者が自動インストールを設定している場合は、web app 内のリンクから desktop app をダウンロードしてインストールできます。更新プログラムが利用可能になると、サインイン時に自動的に更新プログラムが届きます。desktop app とその更新プログラムをインストールするには、コンピューターに対する管理者権限が必要です。
- ライセンス管理者が手動インストールを設定している場合は、ショートカットがコンピュータのデスクトップに表示された後で desktop app の使用を開始できます。更新プログラムが利用可能になると、ライセンス管理者が更新プログラムを展開した後に更新プログラムが届きます。

次の作業

さあ、始めましょう!

2. プロジェクトを開始する

目的

- ワークフローについて学ぶ（7ページ）
- アイデアを作成して提出する（7ページ）
- 新規プロジェクトを開く（8ページ）

ワークフローについて学ぶ

ワークフローは、プロジェクトのアイデアを収集して吟味し、最良のアイデアをプロジェクトに変換し、フェーズのレビューと承認を通じてそれらのプロジェクトを進めるための自動化された方法を提供します。Engageは、ワークフローの有無にかかわらず構成できます。会社がワークフローで運用するように構成している場合 Engage 、すべての公式プロジェクトは承認されたプロジェクトのアイデアから始まります。

次の手順は、ワークフローの基本をまとめたものです。

1. ユーザーはプロジェクトのアイデアを運営委員会に提出します。
2. 運営委員会はアイデアを評価し、方法論とプロジェクトオーナーを割り当てることによって、最良のアイデアをプロジェクトに変換します。
3. ユーザーがプロジェクト所有者になると、ワークフローがそのように構成されている場合、電子メール通知を受信します。プロジェクト所有者は、会社が承認したテンプレートを使用して desktop app でプロジェクトを実行します。
4. フェーズを完了するには、プロジェクト所有者が審査委員会にプロジェクトを提出する必要があります。次に、プロジェクトが次のフェーズに進む前に、審査委員会が現在のフェーズを承認する必要があります。
5. 誰もが自分のプロジェクトをWebベースのプロジェクトリポジトリに保存します。
6. Engageダッシュボードには、リポジトリ内のプロジェクトからのデータが要約され、その結果がレポートに表示され、すべてのユーザーが表示できるようになります。

注： データアーキテクトは、ワークフローを構成し、会社が承認したデータフィールドとテンプレートを **[デザイン]** ページから管理します。データアーキテクトである場合は、データアーキテクトと設計ページに移動します。

アイデアを作成して提出する

ワークフローがオンの場合、アイデアとして開始されるすべてのプロジェクトは自動的にダッシュボードに含められます。プロジェクトのアイデアがある場合は、会社の公式アイデアフォームを使用してアイデアを作成し、提出できます。アイデアを提出した後、Engage は適切な運営委員会に通知します。

アイデアは、desktop app または web app で作成および提出できます。

web app で

1. 自分のEngage ウェブサイトに移動します。
2. web app にサインインします。Engageアカウントを有効化した時に作成したメールアドレスとパスワードを使用します。

3. **[ワークフロー]** ページで、**[新しいアイデア]** を選択します。アイデアフォームがブラウザウィンドウで開きます。
4. アイデアの名前を入力し、フォームに入力します。承認に必要なデータフィールドには必ず入力してください。
5. **[保存]** を選択します。
6. **[編集完了]** を選択します。
7. 右上隅にある [**[運営委員会に提出する]**を選択します。
8. ブラウザウィンドウを閉じて、**[ワークフロー]** ページに戻ります。

desktop app で

1. desktop app を開くには、ショートカットアイコンをダブルクリックします 。
2. desktop app にサインインします。Engage アカウントを有効化した時に作成したメールアドレスとパスワードを使用します。
3. **[ファイル(F)]** > **[新規]** を選択します。
4. **[新しいアイデア]** で、**[アイデアを作成]** ボタンを選択します。アイデアフォームが desktop app で開きます。
5. アイデアフォームに記入します。承認に必要なデータフィールドに必ず入力してください。
6. 右下隅にある **[提出/レビュー]** を選択します。
7. アイデアの名前を入力し、**[保存]** を選択します。
8. のバージョンに応じて Engage、次の操作を行います。
   - Engage 6.3 以前: でダイアログ・ボックスが **[プロジェクトワークフロー]** 開いた desktop appら、を選択します **[レビュー用に送信(S)]**。
   - Engage 6.4 以降: **[ワークフロー]** でページが開いた web appら、を選択します **[運営委員会に提出する]**。

新規プロジェクトを開く

アイデアを提出した後、Engage は適切な運営委員会に通知します。運営委員会は、新しいアイデアを評価して優先順位を付けるユーザーのグループです。運営委員会がアイデアを承認すると、そのアイデアは自動的にホッパーに移動します。アイデアが却下された場合は、Engage から通知が行われ、アイデアを変更して再送信できます。

ホッパーから、運営委員会のメンバーは承認されたアイデアを評価および比較し、どのアイデアをプロジェクトに変換するかを決定します。運営委員会のメンバーは、プロジェクトの開始を決定すると、方法論を選択し、プロジェクト所有者を割り当てます。Engage はプロジェクト所有者に通知を送信し、通知にはプロジェクトへのリンクが含まれます。

1. プロジェクトの所有者である場合は、通知にある新しいプロジェクトへのリンクを選択します。
   Engage により新しいプロジェクトが desktop app で開きます。これにより、**[ロードマップ]**で概説されている方法論のフェーズを通じたプロジェクトの実行を開始できます。

2. **[管理]** セクションのデータを整形します。

   管理セクションは、会社が提供するすべてのプロジェクトテンプレートで同じです。このセクションのフォームには、ダッシュボードレポートに必要なデータの多くが含まれているため、これらの管理フォームに記入し、プロジェクトの作業中に最新の状態に保つことが重要です。

   - **[今日のプロジェクト]**
   - **[プロジェクトアイデア提案]**
   - **[プロジェクト計画書]**
   - **[財務データ]**
   - **[チームメンバーとロール]**
   - **[タスク]**

3. **[ロードマップ]**の各フェーズで推奨されるフォームとツールに記入します。

   ロードマップは、プロジェクトを実行するための会社の青写真です。ロードマップのフォームには、ダッシュボードに必要なデータも含まれている場合があります。**[ロードマップ]**から、次の操作を実行できます。

   - フォームまたはツールを追加します。ナビゲーターペインから、**[ツールを追加]** を選択し、追加するツールまたはフォームを検索し、**[作成(R)]** を選択します。
   - 新しい Minitab プロジェクトを追加して開きます。ナビゲーターペインを右クリックし、**[挿入ツール]** > **[Minitabプロジェクトファイル]**を選択します。
   - フェーズまたはフォルダを使用してロードマップを整理します。ペインを右クリックし、**[フェーズを挿入(A)]** または **[フォルダーを挿入(F)]**を選択します。
   - ツールとフォームを異なるフェーズまたはフォルダに移動します。フォルダとフェーズを移動することもできます。**[シフト]** キーまたは**[Ctrl]** キーを使用して、複数の項目を同時に選択してドラッグします。

ヒント： フォームまたはツールに記入したら、Microsoft® Word と Microsoft® PowerPoint に直接エクスポートできます。ワークシート内を右クリックし、**[Microsoft® Wordに送信(N)]** または **[Microsoft® PowerPointに送信(W)]**を選択します。

次の作業

アイデアを提出し、プロジェクトを開始したので、個々のツールを使用してワークフロー環境でプロジェクトを実行する方法を学習します。

3. ブレインストーミングツールを使用する

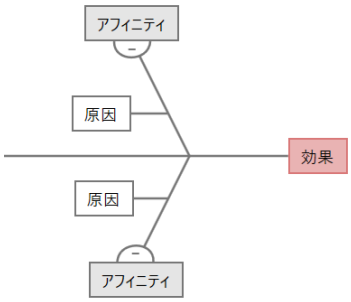
目的

- ブレインストーミングツールについて学ぶ（10ページ）
- ブレインストーミングツールを追加する（11ページ）
- ブレインストーミングリストを生成する（11ページ）
- 図形から X 変数と Y 変数を作成する（11ページ）

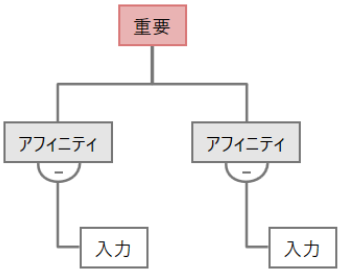
ブレインストーミングツールについて学ぶ

Engage は、ブレインストーミングツールのいくつかの種類を提供しています。

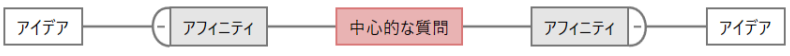
特性要因図を使用して、特定の特性の考えられる要因をブレインストーミングします。



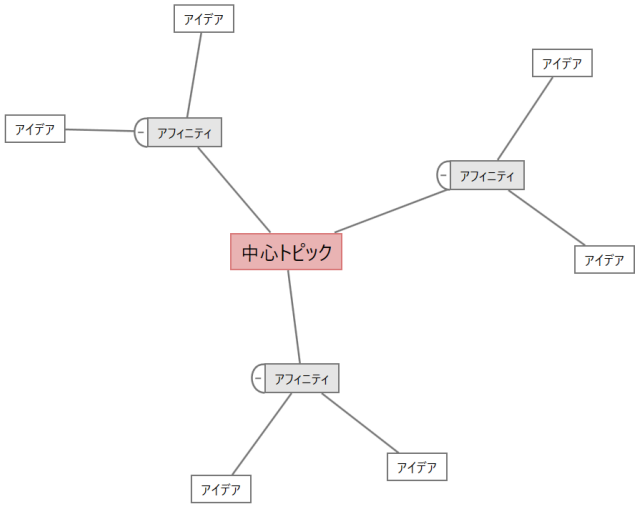
CTツリーを使用して、顧客のニーズを満たす方法を特定します。CTツリーを使用すると、クリティカルトゥクオリティステートメントに関する入力をブレインストーミングできます。



アイデアマップは、汎用のブレいンストーミングに使用します。アイデアマップを使用すると、中心的な質問に関するアイデアをブレインストーミングできます。



マインドマップを使用して、関連するアイデアや概念を整理します。マインドマップを使用すると、中心的なトピックに関するアイデアをブレインストーミングできます。



ブレインストーミングツールを追加する

ブレインストーミングツールを追加して、思考をすばやく生成し、視覚的に整理します。

1. ナビゲータペインで、**[ツールを追加]** を選択し、ブレインストーミングツールテンプレートを選択します。
   ツールのリストを参照するか、**[検索]** ボックスにツール名を入力します。
2. **[作成(R)]** を選択して、ツールをプロジェクトに追加します。

ブレインストーミングリストを生成する

ブレインストーミングツールでは、作業ウィンドウに項目を入力するか、プロジェクト内の他のツールから変数をインポートすることで、ブレインストーミングリストをすばやく生成できます。

1. ブレインストーミングツールで、**[表示(V)]** > **[タスクペイン]**を選択します。
2. 作業ウィンドウで、項目を入力し、**[入る]**を押します。
3. リスト内の1つ以上の項目を選択し、図の図形にドラッグします。
   図から項目をドラッグしてリストに戻すこともできます。

ヒント： 他のツールの変数をブレインストーミングリストにインポートするには、作業ウィンドウで **[Y変数のインポート]** または **[X変数のインポート]** を選択し、**[データ選択]** ダイアログボックスで、インポートする変数を選択します。

図形から X 変数と Y 変数を作成する

ブレインストーミングリストから図の図形に項目をドラッグした後、図形からX変数とY変数を作成できます。図形から変数を作成するときは、後でその変数をプロセスマップ上の図形に追加したり、フォーム内のテーブルに追加してさらに分析したりできます。この例では、ブレインストーミングリストで生成した項目を含む図形からX変数を作成します。

1. ブレインストーミングツールで、ブレインストーミングリストからの項目を含む図形を選択し、右クリックして **[X変数を作成]**を選択します。
2. **[変数を作成]** ダイアログボックスが表示されたら、**[OK]** を選択します。
   Engage は、図形にドラッグしたリスト項目から変数を作成します。

この新しい変数は、次の章で説明するプロセス マップ上の図形に追加するまで、マップ解除されます。

次の作業

アイデアを生成し、ブレインストーミングツールの図形から X 変数を作成したので、プロセスマップを使用してプロセスをマッピングします。

4. プロセスをマップする

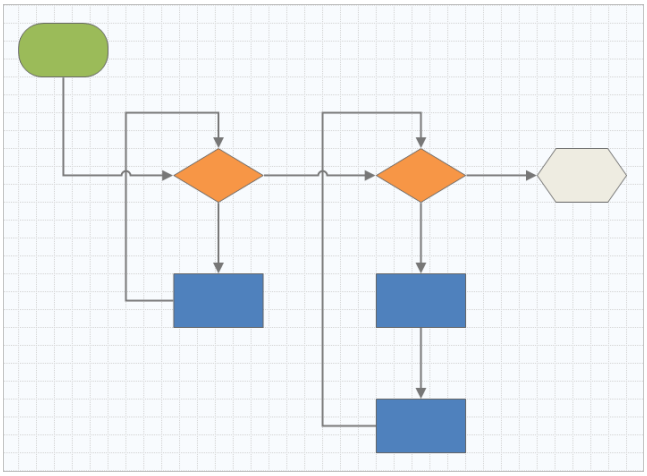
目的

- マップについて学ぶ（13ページ）
- プロセスマップを追加する（15ページ）
- 図形とコネクタを追加する（15ページ）
- 図形に変数を追加する（16ページ）
- マップ上にデータを表示する（16ページ）

マップについて学ぶ

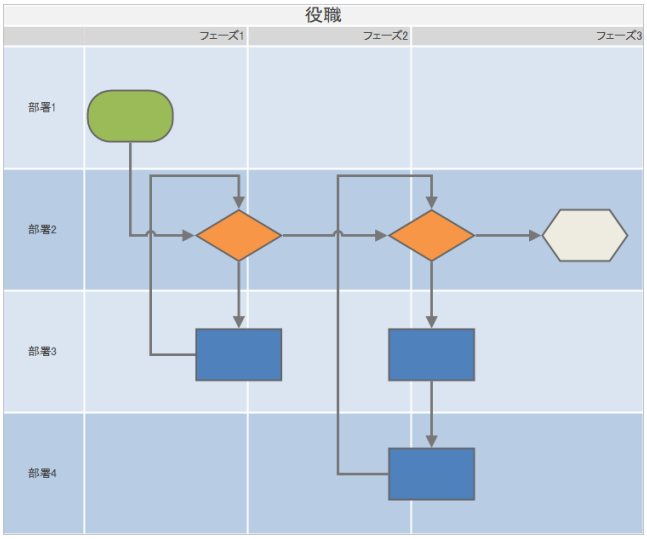
Engage はいくつかの種類のマップを提供しています。

プロセスマップ



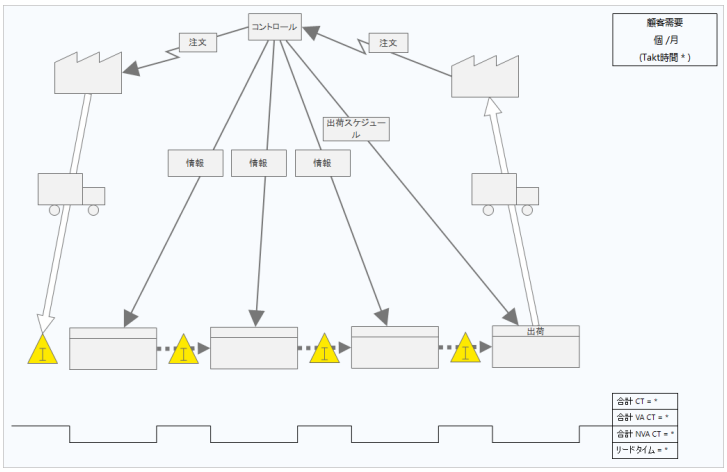
プロセスマップを使用して、順次フローと、プロセスまたは手順内のステップの関係を示します。

部門横断的プロセスマップ



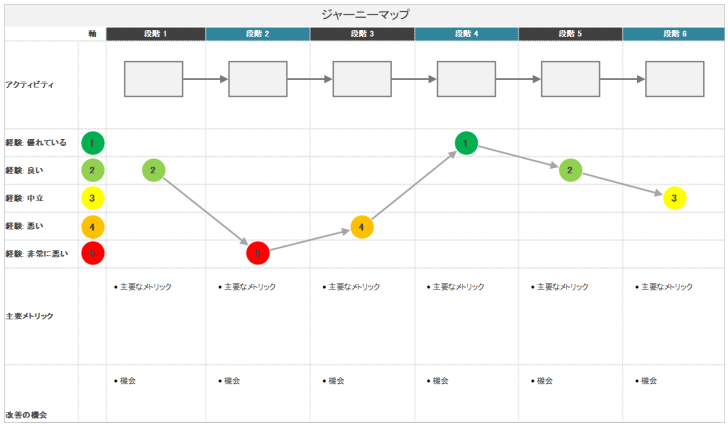
部門横断的プロセスマップを使用して、プロセスまたは手順が部門やフェーズをまたいでいるときの順次ステップを示します。部門 (スイムレーンとも呼ばれる) は、ステップを水平に分割します。フェーズはステップを垂直に分割します。

バリューストリームマップ



バリューストリームマップを使用して、マテリアルと情報がバリューストリームをどのように流れるかを示します。現在の状態値ストリーム マップは、無駄を特定し、改善された将来の状態を思い描くのに役立ちます。

ジャーニーマップ



ジャーニーマップを使用して、ユーザーがタスクを実行するときに通過するプロセスを示します。

プロセスマップを追加する

プロセスマップツールを追加して、プロセスの流れを記述します。

1. ナビゲータペインで、**[ツールを追加]** を選択してから **[プロセスマップ]** を選択し、使用可能なプロセスマップテンプレートを表示します。
   また、ツールのリストを参照したり、**[検索]** ボックスにツール名を入力したりすることもできます。
2. **[作成(R)]** を選択して、ツールをプロジェクトに追加します。

図形とコネクタを追加する

[図形] ギャラリーから、次の手順を実行できます。

1. 図形を追加します。
   a. 開始図形を選択し、ワークスペースを選択します。図形が選択されているときに、開始図形を識別するテキストを入力します。
   b. 決定図形を選択し、ワークスペースを選択します。図形が選択されているときに、決定図形を識別するテキストを入力します。
2. 図形同士を接続します。
   a. 直角コネクタを選択してから、開始図形の上にポインタを置いたままにします。
   b. 開始図形にアンカーポイントが表示されたら、アンカーポイントを選択し、決定図形のアンカーポイントにドラッグします。
   アンカーポイントは、マップ上で図形を移動しても、図形の接続を維持します。
3. プロセスのマッピングを続行します。

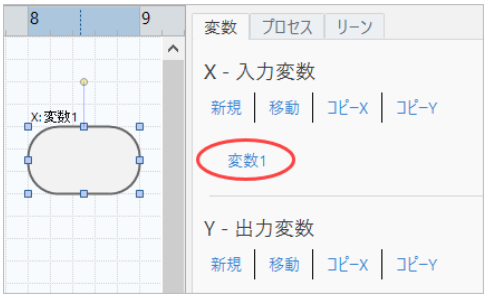
ヒント： 同じ図形を複数回追加するには、**[マルチ挿入]** ボタンを選択し、ギャラリーで図形を選択してから、図形を表示するマップを選択します。必要な数の図形を追加するまで、マップの選択を続けます。**[マルチ挿入]** をもう一度選択してオフにします。**[マルチ挿入]** コネクタと一緒に使用することもできます。

図形に変数を追加する

X変数、Y変数、リーンデータ、およびプロセスデータをプロセスマップ上の図形に追加、コピー、および移動することで、各ステップの結果に影響を与える変数をより深く理解できます。

前の章では、ブレインストーミングツールの図形からX変数を作成しました。これで、そのX変数をプロセスマップ上の図形に移動できます。

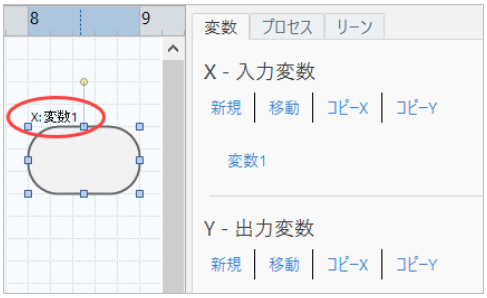
1. プロセスマップで図形を選択します。
2. 作業ウィンドウで、**[変数]** タブを開きます。**[X - 入力変数]** で、**[移動]** を選択します。
3. **[データ選択]** ダイアログボックスで、変数を選択してから、**[OK]** を選択します。
   変数名が作業ウィンドウに表示されます。



マップ上にデータを表示する

図形にデータを追加した後、マップ上にデータを表示して、どこに注意を向けるべきかを確認できます。

1. 図形を右クリックして、**[図形データ(H)]** > **[図形データの選択と配置(R)]**を選択します。
2. **[図形データの選択と配置(R)]** ダイアログ ボックスで、選択した図形を基準にして配置する変数データフィールドを選択します。
   たとえば、**[X変数]**で、**[名前(N)]** を図形にドラッグして配置し、**[OK]** を選択します。
   この例では、変数名が図形の上に表示されます。



次の作業

プロセスをマップしたので、フォームを使用してプロセスに影響を与える変数を評価し、問題に対処するためのプランを策定できます。

5. フォーム内の変数を操作する

目的

- フォームについて学ぶ（18ページ）
- C&E マトリックスを追加する（18ページ）
- 管理計画 を追加する（19ページ）

フォームについて学ぶ

Engage には、プロジェクトに関するデータを収集できるように、いくつかの種類のフォームが用意されています。通常、ユーザーはフォームにデータを入力しますが、他のツール、プロジェクト間、またはダッシュボードでデータが共有されることがあります。

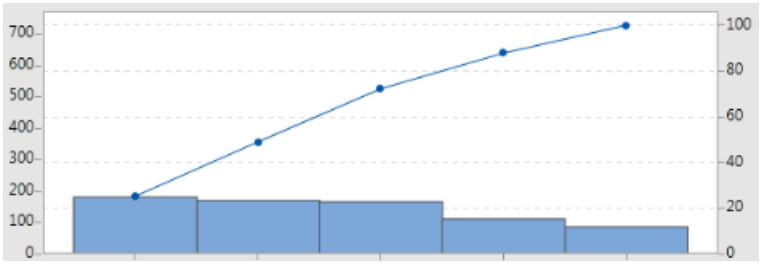
Engage のすべてのフォームの詳細については、利用可能なフォームを参照してください。

C&E マトリックスを追加する

ブレインストーミングツールで変数を特定し、プロセスをマッピングしたら、C&E マトリックスを追加して潜在的な変数を評価し、優先順位を付けることができます。

1. ナビゲーターペインで、**[ツールを追加]** 、**[C&E マトリックス (X-Y マトリックス)]** の順で選択します。
2. 既存の X 変数を追加するには、行にポインタを置き、追加/削除ボタンを選択し、**[既存の X 変数を選択]** を選択します。
   ツールのリストを参照するか、**[検索]** ボックスにツール名を入力します。
3. **[データ選択]** ダイアログボックスで、ブレインストーミングツールで識別し、プロセスマップに追加したX変数を選択します。
4. 新しい Y 変数を追加するには、列にポインタを置き、追加/削除ボタンを選択してから、**[新しい Y 変数の作成]** を選択します。
   複数の列を追加し、挿入ポイントの右側または左側に追加するかを指定できます。
5. マトリックスを完成させます。
   フィールドと表のセル間を移動するには、**[タブ]** キーを押します。
   [C&E マトリックス (X-Y マトリックス)] にデータを追加すると、Engage によって **[パレート図]** が作成されます。

6. **[パレート図]** を確認して、どの X 変数が工程に最も影響を与える可能性があるかを判断します。
   加重値は左側の Y 軸にあり、パーセンテージは右側の Y 軸にあります。



[管理計画] を追加する

対処すべき問題領域を特定したら、コントロールプランを使用して、管理する重要な入力と監視する出力のリストを作成できます。また、これらの変数を管理および監視するために使用できるツールのリストを作成することもできます。

1. ナビゲータペインで、**[ツールを追加]** を選択してから、**[管理計画]** を選択します。
2. プロセスに影響を与える可能性のある X 変数を入力します。X 変数を追加するには、行にポインタを置き、追加/削除ボタンを選択してから±、**[新しいX変数を作成する]** を選択します。
3. また、プロセスマップやブレインストーミングツールなど、他のツールで既に作成した変数を選択することもできます。既存の X 変数をコントロールプランに追加するには、行にポインタを置き、追加/削除ボタンを選択します。±それから X 変数を選択します。
4. フォームに入力します。

次の作業

モンテカルロ・シミュレーションツールを使用して、ランダムなデータサンプルから複雑なシステムやプロセスの動作を評価する方法について学びます。

6. モンテカルロ・シミュレーションを追加する

目的

- モンテカルロ・シミュレーションについて学ぶ（20ページ）
- パラメータの最適化について学ぶ（20ページ）
- 感度分析について学ぶ（20ページ）

モンテカルロ・シミュレーションについて学ぶ

シミュレートされたデータを使用して製品やサービスを改善したい場合は、モンテカルロ・シミュレーションを挿入して実行できます。モンテカルロ・シミュレーションでは、ランダムサンプリングを繰り返して、特定の数学モデルのデータをシミュレートし、結果を評価および最適化します。

1. ナビゲーターペインで、**[ツールを追加]**、**[モンテカルロシミュレーション]** の順で選択します。
2. モデルを定義し、シミュレーションを実行します。変数と応答式を手動で入力するか、**[Minitabからモデルをインポート]** を選択して Minitab プロジェクトから任意の数のモデルをインポートします。
3. 結果を確認します。
4. パラメータ最適化を実行します。
5. 感度分析を実行します。

モンテカルロ シミュレーションを実行すると、Engage には、結果、一般に受け入れられている値との比較、 および次のステップのガイダンスが表示されます。

詳細は、モンテカルロ シミュレーションを参照してください。

パラメータの最適化について学ぶ

パラメータの最適化は、管理可能な入力の最適な設定を識別します。Engage は各入力の値の範囲を検索し、定義された目的を満たす設定を見つけて、システムの機能を向上させます。

詳細は、パラメータの最適化を実行するを参照してください。

感度分析について学ぶ

感度分析は出力の変動にわずかに影響する入力、または出力の変動を低減させる入力を識別します。Engage は、入力標準偏差の変更が、仕様外の出力に対する割合に与える影響を示すグラフを表示します。

結果を分析した後、入力または出力を変更し、分析を再実行して、いくつかの仮説的なシナリオを評価できます。

詳細は、感度分析を実行するを参照してください。

次の作業

[ロードマップ] にいくつかのツールを追加し、プロジェクトの最初のフェーズを完了したので、フェーズレビューのためにプロジェクトを提出し、他のユーザーと共有できます。

7. プロジェクトを提出して共有する

目的

- フェーズレビューのためにプロジェクトを提出する（22ページ）
- レビューステータスを確認する（22ページ）
- プロジェクトを共有する（23ページ）

フェーズレビューのためにプロジェクトを提出する

プロジェクトの方法論の最初のフェーズの必須フィールドがすべて完成したら、レビューのために提出できます。フェーズの完了をマークする前に、フェーズのレビューが必要です。

注： 次の手順では、desktop appでフェーズレビューのためにプロジェクトを提出する方法を示しますが、web appでフェーズレビューのためにプロジェクトを送信することもできます。詳細は、アクティブプロジェクトをレビューするを参照してください。

1. desktop appの右上隅にある **[提出/レビュー]**. を選択してください。
2. のバージョンに応じて Engage、次の操作を行います。
   - Engage 6.3 以前: でダイアログ・ボックスが **[プロジェクトワークフロー]** 開いた desktop appら、フェーズのすべての必須フィールドに入力されていることを確認してから、 を選択します **[レビュー用に送信(S)]**。
   - Engage 6.4 以降: web app の **[ワークフロー]** ページを開いた後、フェーズのすべての必須フィールドに入力されていることを確認してから、を選択します **[運営委員会に提出する]**。

Engage はプロジェクトを保存してレビュー用に送信し、現在のフェーズのレビューを担当する審査委員にのみ通知します。

レビューステータスを確認する

審査委員会がプロジェクトをレビューするのを待っている間、web app でプロジェクトのステータスを確認できます。

1. web app にサインインします。Engage アカウントを有効化した時に作成したメールアドレスとパスワードを使用します。
2. **[ワークフロー]** を選択します。
3. **[アクティブ]** ステージを選択し。
4. **[私のアイデアとプロジェクト]** フィルターから **[ツールを追加]** > **[私のアイデアとプロジェクト]**を選択します。
5. 所有しているプロジェクトのリストから、確認するプロジェクトを見つけて、展開アイコンを選択し、詳細を表示します。
6. **[段階]**で、人のアイコンを選択し、これまでにプロジェクトをレビューした人を確認します。

プロジェクトを共有する

プロジェクトを共有してチームメンバーとコラボレーションし、主要な利害関係者に情報を提供し続けます。ワークフロープロジェクトは、その審査委員会のメンバーと自動的に共有されますが、会社のEngageサブスクリプションに参加しているすべてのユーザーとプロジェクトを共有できます。

1. **[ファイル(F)]** > **[共有]** を選択します。
2. プロジェクトを共有したいユーザーの名前を入力し、プロジェクトへのアクセスレベルを選択して、**[追加(A)]** を選択します。この手順を繰り返して、さらにユーザーを追加します。

次の作業

フェーズレビューのためにプロジェクトを提出し、他のユーザーと共有したので、ダッシュボードを使用して、全体的な展開の進行状況と、特定のプロジェクトがどのように貢献しているかを確認します。

8. ダッシュボードを表示する

目的

- ダッシュボードを開く（24ページ）
- ダッシュボードについて学ぶ（24ページ）
- ダッシュボードのビューについて学ぶ（26ページ）

ダッシュボードを開く

ダッシュボードは desktop app から開くことができます。

1. **[ファイル(F)]** > **[ダッシュボード]** を選択します。
2. web app にサインインします。Engage アカウントを有効化した時に作成したメールアドレスとパスワードを使用します。

ダッシュボードについて学ぶ

Engage ダッシュボードは、プロジェクトデータをレポートにまとめ、展開に関する情報をユーザーと利害関係者に提供します。ダッシュボードレポートを使用すると、展開全体の主要なメトリックの集計データと、1つのプロジェクトのステータス、フェーズ、個々の貢献度などの詳細を確認できます。

ダッシュボードは、web appのコンポーネントです。ダッシュボードレポートは、プロジェクトリポジトリに格納されているプロジェクトのデータを要約します。次の図は、ダッシュボードレポートの例です。

ダッシュボードレポートには、次のいずれかのコンポーネントが含まれます。

1：レポート一覧

使用可能なレポートのリストで、自分が所有する非公開レポート、共有されているレポート、公開レポート別に整理されています。

2：フィルター

地域、場所、プロジェクトのステータスなどの条件に基づいて、プロジェクトまたはタスクのサブセットに集中できます。

3：要約

各部門のプロジェクトまたはタスクの数、プロジェクトまたはタスクの平均期間など、プロジェクトまたはタスクの集計データが表示されます。要約には、オプションのターゲットを表示することもできます。

4 : 列セット
[プロジェクト] リストまたは **[タスク]** リストに表示されるフィールドを決定します。

5 : [プロジェクト] または [タスク] リスト
選択したフィルターの条件を満たすすべてのプロジェクトのリストを表示します。

6 : [アクション] メニュー
レポートの編集、コピー、新規作成、レポートの PDF としての保存、デフォルトレポートの設定などの一般的なタスクにアクセスできます。

7 : [ヘルプ] ボタン
ヘルプパネルが開き、ヘルプトピックや説明ビデオにアクセスできます。**[プロジェクト]** ページのヘルプパネルから、 desktop appをダウンロードできます。

ダッシュボードのビューについて学ぶ

ダッシュボード上のほとんどのレポートは公開されています。ただし、公開レポートを作成できるのはデータ アーキテクトだけです。データ アーキテクトの場合は、「 レポートを作成する」を参照してください。

公開レポートの表示をパーソナライズするには、フィルターを適用します。たとえば、レポートを部署または場所でフィルター処理します。詳細は、フィルターを適用するを参照してください。

非公開レポートを作成して共有することもできます。時間を節約するには、好きな公開レポートをコピーし、それを編集してカスタムの非公開レポートを作成します。詳しくは、 編集モードとはおよびレポートを共有するをご覧ください。

次の作業

ビデオ、ハウツー、用語集の用語については、Minitab Engage サポートを参照してください。

Minitab® Our mission is to help people discover valuable insights in their data.

Minitab helps companies and institutions to spot trends, solve problems and discover valuable insights in data by delivering a comprehensive and best-in-class suite of data analysis and process improvement tools. Combined with unparalleled ease-of-use, Minitab makes it simpler than ever to get deep insights from data. Plus, a team of highly trained data analytic experts ensure that users get the most out of their analysis, enabling them to make better, faster and more accurate decisions.

For nearly 50 years, Minitab has helped organizations drive cost containment, enhance quality, boost customer satisfaction and increase effectiveness. Thousands of businesses and institutions worldwide use our products to uncover flaws in their processes and improve them. Unlock the value of your data with Minitab.

Automation and Reporting

Minitab Connect®

Integrate and transform data for analysis, reporting and monitoring

Data Analysis & Predictive Modeling

Minitab®

Powerful statistical software everyone can use

SPM®

Machine Learning and Predictive analytics software

Model Deployment and Monitoring

Minitab Model Ops®

Model lifecycle management on a simple yet powerful platform

Visual Business Tools

Minitab Workspace®

Visual tools to ensure process and product excellence

Project Ideation & Execution

Minitab Engage®

Start, track, manage, and execute innovation and improvement initiatives

Self-paced Learning

Education Hub™

Master statistics and Minitab anywhere with online training

Quality Solutions

Real-Time SPC™

Monitor, respond, and deliver immediate quality and process monitoring

© 2024 Minitab, LLC. All rights reserved.

Minitab®, Minitab Connect®, Minitab Model Ops®, Minitab Engage®, Minitab Workspace®, Salford Predictive Modeler®, SPM®, and the Minitab® logo are all registered trademarks of Minitab, LLC, in the United States and other countries. Additional trademarks of Minitab, LLC can be found at www.minitab.com. All other marks referenced remain the property of their respective owners.